

エンマ大王が夏のまつりを締めくくりました

～ 第40回登別地獄まつり～

8月29日(金)から31日(日)まで、登別温泉街で登別の夏のまつりを締めくくる『第40回登別地獄まつり』が開かれました。

初日こそ、小雨がぱらつきましたが、30日と31日はまずまずの天気。まつりは、100人の若者が重さ1トンの赤鬼みこしを担いで、極楽通りを練り歩く『鬼みこし暴れ練りこみ』で景気付き、地獄ばやしにのって鬼面をつけた観光客と市民が一緒になって踊る『鬼踊り大群舞』で最高潮となりました。

フィナーレには、『エンマ大王からくり山車』が登場し、エンマ大王が憤怒の形相で地獄の審判を下しました。

今年のまつりでは、奇抜なファッションが楽しい『仮装鬼踊りコンテスト』や昨年に続いて『女みこし』が登場したほか、来春から統合となる登別中学校と登別温泉中学校両校の生徒が一緒になって『温中みこし』を担ぎました。

まつりの3日間の登別温泉の観光客は、4万5,000人。有珠山噴火による風評被害や長引く不況などにより、苦戦を強いられてきた市内観光ですが、今年の秋の予約状況は好調のようです。



『エンマ大王からくり山車』

『温中みこし』を担ぐ登別中学校と登別温泉中学校の生徒



新鮮な海の幸を格安で販売

～ 第26回登別漁港まつり～

9月13日(土)と14日(日)の2日間、登別漁港を会場に、漁の安全操業と大漁を祈願する『第26回登別漁港まつり』(同実行委員会主催)が開催されました。

色とりどりの大漁旗で飾られた漁船が並ぶ会場では、地元で採れたホッキ貝、活ウニ、エビなどの海産物が格安で販売され、新鮮な海の幸を求める買い物客でにぎわいました。

今年は、栗山町農協(空知管内)が初めて出店。特産のジャガイモやトウモロコシなどの農産物を販売し、市民の関心を集めていました。

また、毎年人気を集める、捕れたてのサケを格安で抽選販売するコーナーでは、抽選が行われるたびに会場から大きな歓声があがっていました。

このほか、晴天に恵まれた2日目は、ステージでのバンド演奏やカラオケ大会、夜には花火大会などの催しが盛大に繰り広げられました。



笑顔で迎えた実りの秋

～ ふるさとふれあい農園収穫祭～

9月9日(火)、登別小学校で『ふるさとふれあい農園収穫祭』(登別市ふるさと広場実行委員会・登別小学校主催)が開かれました。



この収穫祭は、子どもたちに農作業の大変さや収穫の喜びを体験してもらおうと、地域の老人クラブの協力を得て、市内の小学校4校で毎年開催されています。

この日は、登別小学校の2年生43人と地元の老人クラブ芙蓉会のお年寄り7人が協力してじゃがいもを収穫。大きく実ったじゃがいもを掘り起こした子どもたちは、大きな歓声を上げていました。

収穫したじゃがいもは、その場でいもだんごに調理され、参加者は実りの秋に感謝しながら、おいしそうに味わっていました。